

総合人間科学 法 学

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	1 人	

2 教員の異動状況

大磯 義一郎（教授）（H24.4～ 現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 大磯義一郎 : 医療コミュニケーションと法、病院 第73巻第1号:60-63,2014
 2. 大磯義一郎 : 医療法学のすすめ－医療と司法の相互理解を目指して、地域リハビリテーション 第9巻第1号: 66-69,2014
 3. 大磯義一郎 : リハビリテーション関連訴訟の実際、地域リハビリテーション 第9巻第2号:145-148,2014
 4. 大磯義一郎 : 身体拘束における司法判断、地域リハビリテーション 第9巻第3号 : 226-229, 2014

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

（2－1）論文形式のプロシーディングズ

（2－2）レター

（3）総 説

（4）著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 大磯義一郎他、医の倫理と患者の人権、医師法と関係法規、診療情報と各種証明書、「公衆衛生がみえる」、MEDIC MEDIA、東京、P66－90
 2. 矢崎義雄編、第8章在宅医療と法、「医療白書2013」日本医療企画、東京、P152－1613. 甲斐克則他、医師の発言と患者の PTSD 発症との因果関係、「医事法判例百選」有斐閣、東京、P144-145

（5）症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 25 年度
（1）文部科学省科学研究費	1 件 (70 万円)
（2）厚生労働省科学研究費	0 件 (0 万円)
（3）他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
（4）財団助成金	0 件 (0 万円)
（5）受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
（6）奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

文部科学省、学術振興会科研費、医療訴訟判決の解析に基づく診療科別・疾患別医療安全工学的
対応策の検討、平成25年—27年、70万円（平成25年度）

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	33 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	1 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
 1. 2013 年 11 月、日本医療マネジメント学会、2013 年度医療安全分科会、「双方向価値共創時代のインフォームドコンセント」
- 3) シンポジウム発表
 1. 2013 年 4 月、リリーブラッシュアップセミナー、「糖尿病領域の医療裁判について」、於都市センターホテル
 2. 2013 年 4 月、講演、日本医科大学付属病院医療安全部門オリエンテーション、「医師として知っておくべき法知識」、於日本医科大学付属病院
 3. 2013 年 4 月、講演、帝京大学附属病院初期臨床研修医オリエンテーション「個人情報保護法」於帝京大学付属病院

4. 2013 年 5 月、講演、臨床医学教育研究会「第 1 回医療法学セミナー」 於慶応大学附属病院
5. 2013 年 6 月、講演、「保険診療と法律」 於浜松医科大学付属病院
6. 2013 年 6 月、講演、「医師として知っておくべき法知識」、 於浜松医療センター7.
7. 2013 年 6 月、講演、第 3 回医師養成大学院（メディカルスクール）シンポジウム、「医師養成大学院（メディカルスクールを考える）～医学教育再建と地域医療」 於研究社英語センタービル
8. 2013 年 6 月、講演、臨床医学教育研究会「第 2 回医療法学セミナー」 於慶応大学附属病院
9. 2013 年 8 月、講演、臨床医学教育研究会「第 3 回医療法学セミナー」 於慶応大学附属病院
10. 2013 年 9 月、講演、関東信越保険医協会、関東信越指導監査対策担当者会議記念講演「法体系の中での個別指導対策（各論編）」 於東京保険医協会会議室
11. 2013 年 9 月、講演、第四回医療法学シンポジウム、「医療法学的視点から見た診療ガイドラインのあり方」 於東京大学
12. 2013 年 9 月、講演、臨床医学教育研究会「第 4 回医療法学セミナー」 於慶応大学附属病院
13. 2013 年 10 月、講演、第 28 回保団連医療研究集会シンポジウム「医師患者関係の再構築に向けて」 於横浜ベイシェラトンホテル
14. 2013 年 10 月、講演、「インフォームド・コンセントの考え方」 於浜松医療センター
15. 2013 年 10 月、講演、「医療法学のすすめ」 於横浜市立大学
16. 2013 年 10 月、講演、「国立大学法人職員における個人情報保護」 於浜松医科大学
17. 2013 年 11 月、講演、「医療法学のすすめ～医師として知っておくべき法知識～」 於滋賀医科大学
18. 2013 年 11 月、講演、「医学研究における適正なガバナンスとは」 於東京大学医科学研究所
19. 2013 年 11 月、講演、臨床医学教育研究会「第 6 回医療法学セミナー」 於慶應義塾大学附属病院
20. 2013 年 12 月、講演、静岡県医師会西部地区、「医療訴訟の実際とその対策」 於ホテルコンコルド浜松
21. 2013 年 12 月、講演、「消化器疾患における医療訴訟」 於金沢赤十字病院
22. 2013 年 12 月、講演、「医師法 21 条再考」 於城山観光ホテル
23. 2013 年 1 年、講演、「個人情報保護法」 於帝京大学付属病院
24. 2014 年 1 月、講演、静岡県医師会中部地区、「医療訴訟の実際とその対策」 於静岡県医師会館
25. 2014 年 1 月、講演、「個人情報保護法」 於浜松医療センター
26. 2014 年 2 月、講演、静岡県医師会東部地区、「医療訴訟の実際とその対策」 於沼津リバーサイドホテル
27. 2014 年 2 月、講演、全国医師連盟、第 3 回医療事故調シンポジウム「事故調査と刑事訴訟の関係性について」 於主婦会館
28. 2014 年 2 月、講演、「個人情報保護法」 於日本医科大学付属病院
29. 2014 年 2 月、講演、「個人情報保護法」 於近森病院
30. 2014 年 2 月、講演、臨床医学教育研究会「第 7 回医療法学セミナー」 於慶應義塾大学附属病

院

31. 2014 年 3 月、講演、第 138 回 AID・介護事故勉強会「介護事故の法的責任の所在」於銀座フ
ェニックス・プラザ

32. 2014 年 3 月、講演、「国立大学法人職員における個人情報保護」 於滋賀医科大学

33. 2014 年 3 月、講演、「介護訴訟の実際」 於米子コンベンションホール

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本精神神経学科情報管理委員会監事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 検証・イレッサ訴訟とは何だったのか,CB ニュース, Apr.2013
2. どこまで OK? 線引き難しい医療広告,CB ニュース, Apr.2013
3. 添付文書 その 2 : どこまで必要? 添付文書の厳格さのさじ加減!, CareNet Apr.2013
4. 法が定める「適切な医療」を前に医師は,CB ニュース, May2013
5. 添付文書 その 3 : 抗がん剤副作用訴訟の最高裁判所判決を読み解く!, CareNet May.2013
6. 「もっと検査していたら」訴訟で問われたら, CB ニュース Jun.2013
7. 診療ガイドライン その 1 : ガイドラインから外れた医療行為は違法か! ?, CareNet Jun.2013
8. 「裏の医師法」療担規則を理解する,CB ニュース, Jul.2013
9. 診療ガイドライン その 2 : 「沿う」以上に重要な「適切なガイドライン」作り! !, CareNet Jul.2013
10. ガイドライン通りでない手術で訴えられたら CB ニュース Aug.2013

11. 健康診断の落とし穴 紛争化する原因を考える,CareNet Aug.2013
12. 手技よりも術後管理のミスに力点を置く裁判所,CareNet Sep.2013
13. 縫合不全に関する訴訟の争点 CB ニュース Oct.2013
14. PTCA で患者が死亡した場合の医師の責任 診療ガイドラインからの考察,CareNet Oct.2013
15. 第 4 回 医療法学セミナー すべては診療録(カルテ)から～記載義務、保存義務、そして開示,MEDICAL QOL,Nov.2013
16. 診療ガイドライン その 3 : 望まれる診療ガイドラインのかたち,CareNet Nov.2013
17. 胃癌見落としに関する訴訟 CB ニュース Dec.2013
18. 処方ミスは誰の責任? 主治医か薬剤師か、はたまた双方か! ?,CareNet Dec.2013
19. 第 5 回 医療法学セミナー ～医療法① 病院の開設と目的、および、株式会社化再考,アポロニア 21、Jan.2014
20. 添付文書を味方につけた裁判例。医師 vs. 審査委員会,CareNet Jan.2014
21. イレウス訴訟で最も多く争われる診断遅れ CB ニュース Feb.2014
22. 非専門医に求められる医療水準の範囲,CareNet Feb.2014
23. 予後不良の責任は? 患者と医師の過失相殺,CareNet Mar.2014

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道

テレビ出演

1. 2014 年 1 月 19 日、日本テレビ「真相報道バンキシャ！」
2. 2014 年 1 月 19 日、日本テレビ「news every」

新聞

1. 2013 年 4 月 13 日、最高裁、イレッサの特殊性重視 重篤患者に処方、臨床医なら認識 産経新聞
2. 2013 年 11 月 21 日、臓器移植後の妊娠免疫抑制剤推奨へ、読売新聞
3. 2013 年 12 月 9 日、インプラント訴訟増加 浜松では賠償命令、静岡新聞
4. 2013 年 12 月 30 日 ノロに感染したら、産経新聞
5. 2014 年 1 月 6 日 医大生、教育環境を重視、静岡新聞
6. 2014 年 1 月 19 日 浜松市の 14 小学校で児童ら 946 人が嘔吐や下痢 ノロウイルスか、産経新聞
7. 2014 年 2 月 25 日 遺伝性乳がんの啓発 CM に批判 なぜ、朝日新聞